

# 活発な中国の女性研究者



## 蔵 雨

齊齊哈爾大学材料科学与工程学院 (中国)  
[161006] Wenhua Street 42, Qiqihar, Heilongjiang,  
China  
副教授, 博士 (工学).  
専門は機能性高分子合成.  
zangyu.25@163.com

[www.qqhru.edu.cn/clkxxy/xyjj.htm](http://www.qqhru.edu.cn/clkxxy/xyjj.htm)

(聞き手) 以前はわずかで限られていた大学院学生を含めた日本の女性研究者は年ごとに増え、ご活躍を目の当たりにする機会が増えてきました。とはいえ、日本では特に子育て世代の女性研究者のご苦労、ご負担は大きく、大変ご苦労されながら仕事と家庭を両立されているようです。そのような体験談を本学会の年次大会で毎年開催されている男女参画セミナーで幾度ともなく拝聴させていただきました。まだまだ制度的なバックアップあるいは社会の理解（これは特に男性の理解と協力が重要であると学びましたが）が不十分であるようです。

最近、中国からの女性留学生がとても増えている印象があり、彼女たちの仕事だけでなく私事における元気に目を見張らせられることも少なくありません。そこで今日は、日本の大学院で学位を取得し、帰国後、中国の大学で教員となり、そして結婚、出産を経験し、今子育ての真っ最中の、中国齊齊哈爾大学の若手女性副教授（日本の准教授に相当）の蔵雨先生に日本の女性の印象、日本との中国の女性の立場の違いなどをお伺いしたいと思います。

(聞き手) 蔵先生こんにちは。ではまず最初に、日本の女性に中国の女性とどのような違いを感じられましたか？

(蔵先生) こんにちは。まず日本の女性は全般に一步下がったもの静かな印象を受けました。それに比べると中国の女性は男性と同様に普通に大きな声で堂々と会話をします。現代の中国人の若い世代の女性には、日本女性のように、男性を立てるといった配慮あるいは思想はあまりないと思います。

(聞き手) 日本人の場合、大学院後期課程に進む女性は今も人数が非常に限られ、とくに工学系で女性教員が少ないことがしばしば問題視されます。一方、中国の女性の理系大学院後期課程への進学率は高く、そのせいか、女性の大学教員がとても多いように感じていますが、中国の女性あるいは社会は、大学院後期課程への進学をどのように考えているのでしょうか？

(蔵先生) 中国では女性の望ましい仕事の大きな選択肢として、大学の教員が含まれています。したがって、一定の女子学生が大学院後期課程に進み、大学教員を目指すことは少なくありません。私もその一人でしたし、周りにも何人かそういう人が居ました。私の場合、この進路決定はごく自然で、家族からも反対はなく、常に肯定的に応援してもらいました。周りの人たちもそうだったと思います。

(聞き手) 中国では男女の関係が、日本よりもより平等

であるように感じていますが、実際、どう感じておられますか？

(蔵先生) 日本の状況はよくわかりませんが、中国の若い世代では家事の負担は男女で平等である場合が多いです。たとえば、食事の準備をする夫はかなり多く、最近ではごく自然です。

(聞き手) 日本人は晩婚化が進み、かつては働く女性は結婚をしない場合が少なくなかった印象がありますが、中国の場合はどうでしょうか？

(蔵先生) 最近の中国の博士課程の女子学生の少なからずは、在学中に婚約者がおり、学位取得後、早い時期に結婚している場合が多いです。夫婦ともに大学教員に就職する場合も少なくないです。

(聞き手) 日本もそのようであれば、少子化問題の緩和の糸口になるかもしれないですね。日本人の場合は、社会的な背景からか、結婚にためらい、晩婚化する傾向があるように思いますし、また、結婚しても子供をもつことに不安を感じ、出産年齢が遅くなりがちです。中国ではどうでしょうか？

(蔵先生) 今の中国では結婚は20歳台、出産は30歳までにとというのが、一般的な目安としてあるように思います。私も大体そんな感じでしたし、周りの同世代の女性教員もそんな感じでした。

(聞き手) 中国の大学の産休はどのようでしょうか？ 代用教員はいるのでしょうか？

(蔵先生) 出産後、半年間認められます。代用教員はいませんが、出産する女性教員は毎年居るので、お互いに順番に助け合うことができます。

(聞き手) 中国の子育て環境はどうでしょうか？ 日本では保育園の待機児童問題が叫ばれて久しく、まだ解決に至っていないようですが。

(蔵先生) 中国ではそういうことは聞きません。施設ごとの環境の差は大きいですが、受け入れ施設のキャパシティーは十分だと思われます。

(聞き手) 保育園に預けることのできる年齢になる前はどうか？

(蔵先生) 中国では、実家の母に来てもらって、育児を助けてもらう場合が少なくないです。私もそうですし、周りの知り合いもそういう場合が少なくありません。

(聞き手) ありがとうございます。女性の元気な中国の状況から、日本の問題点の解決の糸口が少し見えたような気がしました。今後も、研究と子育てに頑張ってください。

\* (聞き手) 青木俊樹 (新潟大学自然科学系教授)